



こぶし

令和元年10月31日

第8号

支笏湖小学校

校長 小川 亮男

令和元年度 学校重点教育目標

『実践力（できる）へとつながる学校教育活動の推進』

支笏湖小の児童たちの活躍をご覧ください！

校長 小川 亮男

こっくりと色づいた葉も、冷たい風に吹かれ落葉する季節になりました。学校の教材園もミニトマトの最後の収穫を終え、閉園となりました。植物を育てていると季節の移ろいを強く感じます。

学芸発表会が、いよいよ明日に迫りました。今年のテーマ「和の心を大切にしよう」を目標に児童たちの努力が続いてきました。29日（火）に行われた総練習では、うまくいかなかったことも多く、残りの2日間で本番に向けた仕上げの練習が真剣に行われました。9月の連合運動会に続いて学芸発表会という児童たちにとっては大きな行事がとなり、取組を通して児童たちの成長ぶりに驚かされます。

行事では、児童たちにも先生やそれを支えてくださる保護者の方々にとっても、少なからず負荷がかかってくるものです。しかし、その負荷によって子どもたちは自分の持てる力を精一杯発揮し、大きく成長するための原動力ともなっています。もちろん、大きすぎる負荷は負担となってよい結果に結びつかないものですが、児童たちの力を信じて課題を投げかける先生とそれを受け止めて、成果に結び付けようとする児童たちの努力、支えて励ましてくださる保護者の方々、そんな互いの思いが、本番を迎えて一気に花を開かせていくように感じます。

今年の劇は、これまでと趣を変え「笑点」を題材にして、児童たちが落語家に扮し、笑いを取りながらも、その中で真面目な「プレゼン」を行います。大喜利のお題は3つ。その中で、児童たちが笑いを取ろうと一生懸命頑張ります。多少早口で、聞き取りづらいところもあるかもしれませんが、それはそれ、温かい心で応援してあげていただければ幸いです。（笑いを取るのは難しいですね。）

6年生にとっては、小学校で最後の学芸発表会です。他の学年とともに力を合わせ、最高学年として、また学校の代表として、堂々とした姿を見せてくれるに違いありません。児童たちは、この行事を通して、初めにできなかったことがコツコツと練習を積み重ねることでできるようになったり、質がよりよいものに進化したりと、それぞれの学年に様々な展開が繰り広げられています。

2年生から6年生までの児童たちが、お互いの取組を見て、教え教わり刺激を受けることで、お互いの成長につながっていきます。このことは、規模が小さい学校の強みとなっています。体育館や図書室、各教室から、児童たちが一生懸命練習に励む声や音が、毎日聞こえてきました。児童たちと教職員が努力を積み重ねて、作り上げてきたものを、ぜひ見ていただければと思います。どの子にとっても最高の一日になりますように。



←総練習での一幕です。↓

